

●相模ダムの沿革

相模川は、富士山山麓の山中湖を源として、山梨県の東部を流れて神奈川県に入り県中央部を流下し相模湾に注ぐ全長109km、流域面積1,680km²の神奈川県最大の1級河川です。水量、水質とも安定した相模川は、古くから流域の人々の生活用水・かんがい用水・漁業等に広く利用されてきました。

この相模川に相模ダムは、昭和13年に事業決定された相模川河水統制事業の基幹施設として、戦中・戦後の激動の時代を乗り越えて、昭和22年6月に完成しました。

この事業は、わが国最初の河川の総合開発事業であり、また神奈川県が全国に先駆けて行った広域的な水源開発事業として、京浜工業地帯の工業の進展や人口の増加に対応する電力の供給及び上水道用水、工業用水の供給に加え、食糧増産のためのかんがい用水の供給、さらには洪水の調節も目的としていました。

竣工後も増え続ける水需要と電力の確保のため、昭和26年に相模川河水統制第1次増強事業に着手し、引き続き昭和28年に相模川河水統制第2次増強事業に着手、さらに昭和35年には相模川総合開発事業に着手し、昭和40年に城山ダムが完成し、相模・城山2ダムを一体とする連携運用により、神奈川県の大増する水需要に対応してきました。

平成13年度からは、宮ヶ瀬ダム（国管理）の完成に伴い、相模ダム、城山ダム及び宮ヶ瀬ダムを2本の導水路で結び、3湖を一体とした総合運用を実施しており、さらなる水資源の有効活用を図っています。

- ◆相模川河水統制事業の主要施設 上流より、相模ダム、相模発電所、沼本ダム、津久井導水路、津久井分水池、津久井発電所（相模川水系利水状況概要図参照）
- ◆相模川河水統制第1次増強事業 相模ダムゲートをかさ上げして満水面標高を165mから167mへと2m上昇させることにより、有効貯水容量を600万m³増加させました。
- ◆相模川河水統制第2次増強事業 相模川の支川である道志川に道志ダム及び道志第1、第2発電所を築造し、発電を行うとともに道志川の水を相模湖に導水しました。

●事業年表

年月	事 項
昭13. 1.	相模川河水統制事業が県議会で議決
昭15.11.	相模川河水統制事業（相模ダム等）起工、津久井発電所建設工事着工
昭16. 6.	相模発電所建設工事着工
昭18.12.	沼本ダム竣工
	津久井発電所1台目（2号機）竣工・運転開始
昭19.10.	津久井発電所2台目（1号機）竣工・運転開始
12.	相模ダム湛水開始
昭20. 1.	相模ダム満水位に達する
2.	相模発電所1台目（2号機）竣工・運転開始
昭21. 8.	相模湖命名式挙行
昭22. 6.	相模川河水統制事業（相模ダム等）竣工
7.	昭和天皇、皇后両陛下相模湖に行幸啓
	相模発電所2台目（1号機）竣工・運転開始
	カスリン台風により桂川橋流失等島田村（現上野原市）新田地区に被害
昭26. 7.	相模川河水統制第1次増強事業に着手
昭28.12.	相模川河水統制第2次増強事業に着手
昭30. 5.	相模川河水統制第2次増強事業竣工
昭35.12.	相模川総合開発事業が県議会で議決
昭36.10.	相模川河水統制第1次増強事業竣工
昭37. 2.	相模川総合開発事業工事起工
昭39.10.	東京オリンピックカヌー競技を相模湖で開催
昭40. 3.	城山ダム竣工
昭57. 8.	台風10号により、上野原町（現上野原市）新田地区に床上浸水等の被害
昭61. 4.	相模発電所改造工事着工
昭63. 5.	エアレーションの設置開始
平 2. 3.	相模発電所改造工事竣工
平 5. 4.	相模貯水池大規模建設改良事業に着手
平 9. 3.	相模川高度利用事業Iにおける水利使用許可
平13. 4.	宮ヶ瀬ダム完成に伴い相模ダム・城山ダムとの本格的な3湖総合運用開始
	津久井発電所改造工事着工
平17. 3.	津久井発電所改造工事竣工
平21.10.	津久井導水路改修工事着工
平22. 7.	相模ダム管理橋架け替え工事着工
平25.12.	津久井導水路改修工事竣工
平26. 3.	相模ダム管理橋架け替え工事竣工
令 2. 3.	相模貯水池大規模建設改良事業の完了
令 2. 4.	相模貯水池堆砂対策事業に着手